



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四三七号）

雨水うすい

二月十八日

お木曳の木遣り

暦の春、立春から数えて十五日目、「雨水うすい」を迎えました。二十四節気のことばの「雨水」は、雨水がぬるみ草木が芽ぐむころの意味があります。我が家の庭木の木蓮のつぼみも随分と付いていることに気づきました。農耕始めに豊作を祈る、伊勢神宮の祈年祭きねんさいも十七日にすみました。春の足音がゆつくりと聞こえてくるようです。

落ちてゐし種ふくらめる雨水かな 滝沢伊代次

旅に出て少しはなやぎ雨水の日 石井英子

これらの句も、二十四節気の「雨水」を詠み込んだもの。どこか気持ちがふわりと軽やかになります。

来年には神宮式年遷宮しきねんせんぐうの行事である「お木曳きびき」が始まります。この十一日に伊勢の各町にある奉曳団ほうえいだんの役員たちが集まり、奉曳団連合会が結成されました。各町でも、公民館などで木遣りの稽古が始まっています。先日、ある奉曳団の木遣り練習にお邪魔しました。そこでは去年十二月から、月に二回、子どもを中心に集まっています。四歳から小学五年生までの男女が十人ほど。公民館の一室は、子どもたちの元気な声が響いています。

木遣りを見守る世話人の方達も四、五人いました。どの団も、子どもたちが減って、大変だと教えてくれました。けれど、木遣りの練習が始まると子どもたちの歌に合いの手を入れたり、姿勢を正したり、うれしそうな様子です。奉曳団の花形である木遣り。御木を曳く際、皆の気持ちを合わせるため、采さいを右手に持ち、振り回しながら歌います。大人だけでなく、子どもも重要な役目を担います。木遣りは歌詞があるだけで、譜面はありません。そのため、子どもたちは聞いて覚えるしかないので、暖かくなったら、外で木遣りの練習が始まるといいます。意気込みも高まります。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ おかげ横丁 ひなまつり

女性にとってはいくつになっても心弾む、年に一度の特別な日「ひなまつり」。女の子の成長を祝い、平安貴族のように優雅で美しく育つようにとの願いを込めて、美しい衣装を着せた人形を飾ります。

春の佳き日に、皆様で願いを込めてお祝いしましょう。

日 時／2月22日(土)～3月3日(月) 10:00～17:00 (催しによって異なる)

場 所／おかげ横丁一帯

● お雛さまに大変身【予約優先】

十二単風の衣装と東帯衣装を着てお雛様やお内裏様のように記念撮影していただきます。

日 時／2月22日(土)～3月3日(月) 10:00～16:30 (受付終了)

場 所／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

体験料／1,200円 (税込) (レンタル衣装と着付け代)

※写真や台紙は付属しません。お客様のカメラで撮影となります。

● 型染めのタペストリー作り体験

伊勢型紙彫師の那須恵子氏がデザイン・製作をした伊勢型紙を使って、伊勢木綿の生地に着用絵の具を使って型染めをします。

オリジナルのひなまつりタペストリーを作りましょう。

日 時／2月22日(土)～3月3日(月) 10:00～16:30 (受付終了)

場 所／伊勢路裁苑

体験料／1,870円(税込)

お問い合わせ／伊勢路裁苑 (0596-23-3077)

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 宇治の御師と浦田長民

宇治の御師は幕末には309軒ありました。今は神宮職舎(旧慶光院)の表門と少宮司宅横の門に惚ぶくらいです。それは明治になって御師制度が廃止されたからです。と同時に神宮にも改革の嵐が吹きました。その時に先頭に立ったのが少宮司だった浦田長民です。

御師が作っていた大麻を廃止、神嘗祭をはじめ諸祭儀式を整備し、神宮大麻の全国頒布を実施するなど大きな功績を残しました。その屋敷跡はなんと五十鈴塾の右隣です。

いたるところが御師屋敷跡である宇治の町、その隆盛ぶりを山中先生にお話しいただきます。

日 時／2月21日(金) 13:30～15:00

講 師／山中 一孝(豆腐庵山中代表取締役)

参加費／一般 1,500円 会員 1,100円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

な はな
菜 の 花

温暖な気候の伊勢志摩地方では、年頭から菜の花が咲き始めます。白餡のそぼろを菜の花の色に染めて粒餡を包み、春景色を表現しました。

うめ
梅 ご よ み

寒い中にも、春の訪れを告げる梅の花の頃です。薄紅色のかるかんで白小豆を散らした羊羹を巻きました。あちらこちらで咲く、梅の花の情景が思い浮かべられます。

つばきもち
椿 餅

「源氏物語」の中にもその名が見受けられる椿餅です。桂皮(けいひ:シナモン)が香る道明寺でこし餡を包み、椿の葉で挟みました。ほのかな香りをお楽しみください。